

令和2年11月1日

学校法人 西鉄学園
西鉄自動車整備専門学校
校長 椎葉 小夜子

「自己評価及び学校関係者評価結果（令和元年度版）」 報告

学校法人西鉄学園 西鉄自動車整備専門学校では、令和元年度の自己点検・自己評価を実施し、本校規程に基づき学校関係者評価委員会を開催いたしましたので、ここに学校教育法施行規則第189条に則して「自己評価及び学校関係者評価結果（令和元年度版）」を公表いたします。

学校関係者評価委員会からのご意見を真摯に受け止め、教育力の更なる向上、より良い学校運営を目指し、教職員一同努力して参ります。

今後とも、一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■学校関係者評価委員

	氏 名		所属等
	企業・団体	自動車業界	西本 考造
井手 克英			トヨタカローラ福岡株式会社 サービス部 技術グループ グループ長
業界団体		村川 英司	一般社団法人福岡県自動車整備振興会 指導部 部長
教育有識者		井上 武之	経歴：高等学校校長、篠栗町教育委員長
卒業生		川上 康治	ヤナセバイエルンモーターズ株式会社 福岡本店 サービス課 係長
事務局 (学内)		椎葉 小夜子	理事・校長
		目原 宏輝	教頭
		阿納 弘通	総務・学生課 係長
		浅井 朋晃	広報課 係長

西鉄自動車整備専門学校 自己評価及び学校関係者評価結果(令和元年度版)

令和2年11月1日公開

評価項目	自己評価	学校関係者評価
(1) 教育理念・目標・育成人材像 ----- ○理念等の達成に向け特色ある教育活動への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 企業関係者や卒業生との交流機会を設け、業界のニーズをつかみ人間力の育成に取り組んでいる。特に挨拶や、時間の厳守等、学生の態度の教育に力を入れている。 自動車整備士に求められるコミュニケーション力を高める教育の実施が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶に関しては一つの行動パターンを作り実践させることが有効だと考えられる。 社会人マナーが当たり前となるよう習慣付けさせてほしい。 企業でもスピーチなどで話すことを研修に盛り込んでいる。学生のうちから、そのようなことをさせておくことも重要。
(2) 学校運営 ----- ○理念等を達成するための事業計画	<ul style="list-style-type: none"> 中期経営計画に沿って、各年度の事業計画を明確に策定している。 毎年度、数値目標を念頭に置いて計画を策定し、常にその執行状況を把握し、進捗の共有化を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 運営面、また学生募集も厳しい状況ではあるが、しっかりとした募集活動を行い整備士養成に取り組んでほしい。
(3) 教育活動 ----- ○教育目的・目標に沿った教育課程 ○職業実践教育の視点での教育内容・教育方法・教材等の工夫 ○授業評価を実施する体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> 国土交通省規定のもと、自動車業界のニーズに照らし合わせ編成している。科目別に学科授業、実習授業を行う体制を取っており、自動車に関する知識と、車体構造を確認、体感できるようにしている。 授業内容については、科目別に授業目標、内容、教材等を記したシラバスを作成している。今後の業界の動向に合わせ、スタンダード化される新技術に対する教育の内容や方法、教材等への対応が課題。 前期・後期に分けて、授業科目ごとに学生へのアンケートを実施している。評価結果については、担当教員に結果を通知し、自主的な改善を求めている。責任者も各授業評価を把握している。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在高校では普通科の再編成が行われている。早い段階で働く意義を意識させる動きで、今後もそのような方向性となる。また、今般のコロナ禍の影響で元の教育状況には戻らないと予想され、時代の大変換期と考えられる。このコロナ禍をきっかけに皆が意見を出し合い総意を結集しないと今後は厳しいと思われるので、そのような考えを持って教育に当たってほしい。
(4) 学修成果 ----- ○資格・免許の取得率向上への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 二級自動車整備士資格は、合格率 100%を目標にしている。この資格取得は、本学の必達目標であり、教職員一丸となって、学生支援・指導に取り組んでいる。学生一人一人に危機感を持たせること、合格レベルに達するのが困難な学生への対策が不十分。 	<ul style="list-style-type: none"> できる限り勉強の時間を作り、リーダー的存在の学生に教えさせるのも手。資格取得に向け、気持ちを切り替えさせることが重要。そうするために、世間話から入り取得の重要性を話していくような接しかたが必要。また、プライベートで問題がないか等も話すことが大切。
(5) 学生支援 ----- ○就職等進路に関する支援組織体制 ○退学率の低減 ○学生相談に関する体制整備 ○カウンセラーの配置等相談に関する組織体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> 就職講座、面接対策、SPI 対策等をカリキュラムに組み込み実施し、就職試験前には個別指導も実施している。面接試験ではコミュニケーション力の問題にもかかわるので、しっかりと指導に取り組まなければならないと考える。基礎学力の向上と就職意欲の弱い学生、不合格を重ねる学生に対する指導が課題である。 メンタルヘルス、学力不足、経済的問題、将来の方向性が明確にされていないことによる退学者が増加傾向にあるため、面談等で将来を考える機会を作り、指導することが必要である。 日本人学生、留学生共に学年担任が中心となり対応しているが、年々、心に疾患を抱える学生達が増加傾向にあるため、教職員のメンタルヘルスに関する知識の更なる向上が重要だと考える。また、メールや LINE 等いつでも連絡が取れる手段の更なる利用も視野に入れる必要がある。 担任が中心となって学生面談を実施している。また、随時相談を受けた教員が、その場で学生の相談に応じているため、初期段階で対応に当たる教職員個々の能力や知識のさらなる向上が望まれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 整備業界ではコロナ禍でも求人とはならず、反対にもっと欲しいという状況。車通動が増えるなどのプラス面に目を向け何かできることはないかと考え活動を行っている。このように就職に強い業界であることを学生にも周知して業界への意欲を持ち続けられるよう指導してほしい。 相談しやすい雰囲気を作るなど学生のメンタルヘルスに関する動向を見逃さないようにすることが重要。

<p>(6)教育環境</p> <p>-----</p> <p>○教育上の必要性に十分対応した施設・設備等の整備</p> <p>○担当教員の明確化など学外実習等の安全管理体制を整備しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習設備、教材、機器類については国土交通省規定に基づき定期的に補修・数量・校正等の管理を実施しているが、施設や設備面において、経年劣化が進んでいることが課題である。教材はスタンダード化してきた先進技術に対応するための教材導入の検討が必要だと考える。 ・ 実習作業時における火器類の扱い、ジャッキアップやリフトアップ時での安全確認、加えて実習終了時には点検確認を徹底している。実習心得を学生便覧に記載しているが、周知徹底までには至っていない。今後は、安全管理意識の啓発を常時行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業時の声掛けや車両の保護カバーの取り付けなど、安全管理意識が低いイメージ。徹底的な指導を続け、習慣化させることが必要。また、学生には自分の考えだけで行動せず、周りからの指導には耳を傾けるよう教え込んでほしい。 ・ 日本人の特徴として中立性(曖昧さ)があり、これは安全管理に疎い原因の一つとなっている。安全管理に関してははっきりとした考え方を持たせることが必要。
<p>(7)学生の募集と受け入れ</p> <p>-----</p> <p>○高等学校等における進学説明会での教育活動等の情報提供</p> <p>○高等学校等の教職員に対する入学説明会の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進学説明会に積極的に参加し、学校の教育活動内容について情報提供を行っている。また、進学雑誌やホームページ等においても積極的に情報公開を行っているが、SNS を利用した説明会の実施や、動画による学校生活の様子を配信するなど、Web 活用が課題。 ・ 高等学校の教職員に対する入学説明会は実施していない。学校の取組みを理解してもらうための教職員へのアプローチが課題。高等学校との連携を図り、学校の理解を深めてもらう取組みを検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動車に触れたり試乗体験したりできるイベント等をもっと増やしたらどうか。先日開催した自動車学校のコースを使用しているオープンキャンパスでの試乗体験もかなり高評価だったので、もっと家族ぐるみで参加できるイベントにして、自動車業界や自動車整備に中学生の頃位から興味をもってもらうのが良いのではないだろうか。企業としても積極的に参加協力したい。
<p>(8)財務</p> <p>-----</p> <p>○学校の財務基盤体制</p> <p>○予算・収支計画の適正性</p> <p>○会計監査</p> <p>○収支状況の公開体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収支状況については、各月ごとに収入・支出予算対比表を作成し、現状把握をしている。留学生自動車整備士コース〔3年制〕を設立し、経営基盤の安定に向けた取り組みを推進している。 ・ 年度予算計画を作成し、目的に応じて適正に執行管理がなされており、課題は特に無い。 ・ 会計監査については、学園理事会において、学園監事による監査を実施している。 ・ 収支状況の公開については学校関係者評価開催日以降に公開予定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特に問題はない。
<p>(9)法令等の遵守</p> <p>-----</p> <p>○学校運営に必要な規則・規定等を整備</p> <p>○教職員、学生に対する法令遵守に関する研修・教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法令遵守の徹底を図るべく、コンプライアンス・マニュアルを策定して教職員全員に配布し、定期的に研修を実施している。学生に対しては、規則や規定を記載した学生便覧を配布し、オリエンテーション等で周知を図っている。 ・ 未成年者による喫煙、並びに交通違反、違法駐車などの法令違反の撲滅が課題。巡回などを行い、違反者に対する再教育を継続して実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ トヨタの法令遵守に対しての考え方は素晴らしいものがある。こういったものを学生に紹介するなどして意識付けしてほしい。 ・ いつ誰に見られているか分からないという意識をもって行動するよう指導することが必要。
<p>(10)社会貢献・地域貢献</p> <p>-----</p> <p>○学校設備・施設等の地域・関連業界等・卒業生等へ開放</p> <p>○高等学校等が行うキャリア教育等の授業実施への教員等の派遣</p> <p>○学校の実習施設等の活用、高等学校の職業教育等の授業実施への協力・支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福岡県専修学校各種学校協会に参画し、専門学校の発展に寄与している。学校周辺地域の方々に学校のことをよく知ってもらい、開かれた学校としていくことが課題であるため、自動車整備業界の仕事幅広く認知してもらうための活動や面白さを体感してもらいイベント等を実施していく。 ・ 高等学校等からの授業要請には積極的に応じている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業と高校の連携例として、高校の先生対象にハイブリッド自動車についてのセミナーの開催や、高校生向けに整備関係の実習の体験コースを開催するなどがある。専門学校もこのような形で高校との連携を開拓していくことが必要。受け入れる高校は必ずあるので、頑張っって開拓して欲しい。
<p>(11)国際交流</p> <p>-----</p> <p>○留学生の受け入れ・実施状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動車整備士を希望する外国人留学生のための受け入れ制度、学科を整えている。今後、留学生が希望する企業に就職できるように教育課程を充実させ、さらなる教育力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 就職試験については、面接時に質問と回答がずれていると採用がかなり難しい。分からないときは聞き返すなど、しっかりとコミュニケーションができるよう指導することが重要。